

特集にあたって

本誌『救急医学』10年ぶりとなる“救急医のための”ガイドライン解説特集は、「現場で使いやすいこと」を第一に考えて作成しました。企画時点でわが国に存在した診療ガイドラインをできるかぎり収集し、本誌編集委員会ならびに編集部が「救急現場で使える」ことを意識して吟味・選別・整理した、選りすぐりの内容になっています。

冒頭の総論では、「診療ガイドライン」をどのように考え、どのように作成し、どのように使用するのがよいのか、とくに救急領域で上手に活用するという観点から解説いただき、ガイドラインにまつわる現場の悩みを解きほぐします。各論の解説で取り上げるガイドラインは「必修」と「重要」に分け、救急現場におけるさらなる救命率向上に向けて絶対にはずせないガイドラインはもちろんのこと、社会復帰率などのQOL向上を目指すべく、救急後の継続診療や院内・地域連携の観点も加味したより質の高い救急医療のために、他専門領域にまで跨って幅広く網羅しています。

解説の執筆は、ガイドラインの作成に直接かかわられた先生、あるいはその領域の第一線で活躍されている専門医にご担当いただき、現場ですぐに活用できるような、明快な紹介・解説をお願いしました。さらに、概説と活用ポイントだけでなく、ピットフォールなどを含む課題や次の改訂に向けた展望、国内外の関連ガイドラインなども併せてご紹介いただいています。日々の臨床はもちろんのこと、新たな臨床研究のヒントにもなるような、本誌ならではの現場目線のガイドライン解説集になったと自負しています。多くの救急医に現場でご活用いただけることを祈っています。

『救急医学』編集委員会

企画担当：太田 祥一

(親樹会恵泉クリニック / 埼玉医科大学総合医療センター高度救命救急センター)